

大震災 トイレが使えない！

その時、あなたは？

～どのような状況下でもトイレに困らないために～

製作：女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト(JKB) 発行：川崎市男女共同参画センター(愛称：すくらむ21)

7月5日(土)、川崎市男女共同参画センター(すくらむ21)にて、ダンボールを使った簡易トイレ「ダンボールトイレ」の作り方や、「災害時のトイレ事情」についての講座を行いました。川崎市内に住む男女31名が参加し、5つのグループに分かれ、全員参加型で1つのダンボールトイレの作り方を実際にカッターや採寸しながら作製体験しました。実際に作製することや、またダンボールトイレ以外の様々な簡易トイレを知ることで、非常時に備えるアイテムの1つとして、自分に合った災害時の「マイトイレ」を考えるきっかけ作りとなりました。

外出時に災害に遭遇！携帯マイトイレという備え方

皆さんは自宅から離れた街で買い物をしている時や遠出をしている時に、今大地震がきたら、と想像した事はありませんか？今回はそのような時の外出時のトイレ事情を考えてみましょう。

東日本大震災以後、行政は「まず動かない。」という事を奨励しています。勤務中であれば会社内に留まって情報を得てから明るい時間に帰宅します。また、帰宅途中の場合には、近くの一時滞在施設や災害時帰宅支援ステーションで一時身を寄せてから、次の行動を考えることになるでしょう。

さて、それでは「もちろんトイレも問題ない！」とお考えでしょうか。実はそれは間違いです。なぜなら、避難所となっていた学校で実際にあった事ですが、大きな揺れで配管が壊れてトイレの水が流せなかったり、避難者数に対してトイレ数が足りず常に満杯で使えなかったりといった問題が、帰宅途中でも起こる事があるからです。

そこで、どうしても我慢できない時の為に、日頃から持っていて欲しいのが「携帯マイトイレ」です。市販されているものも色々あります。また、私たちJKBがお勧めしたいのが、レジ袋と凝固剤だけの携帯トイレです。身の回りにある物を利用してコストがあまりかからないことがその理由です。目隠しとなるポンチョや大判スカーフがあると安心です。

①市販の凝固剤付き
携帯トイレ
(男女兼用または
女性用がある)



②タブレット付き
携帯トイレ



*市販のタブレットは吸収力が高い。
*厚紙の枠を折りたたんで携帯する。

③JKB推奨の
手作りトイレ



*レジ袋を外に折る

流せないトイレ対策についてのミニ実験！

今回は講座の中で初めて参加者の皆さんと実験をしました。5グループに分かれた各テーブルに其々、折りたたんだ新聞紙5枚入りビニール袋、猫砂2カップ入りのビニール袋、犬用トイレシート入りのビニール袋、7グラム入りの凝固剤入りのビニール袋の4種類、200mlのところどころに線の入ったポリコップ、2ℓの水が入ったペットボトルを用意しました。

ペットボトルからコップに200mlの水を注ぎ、それをビニール袋に入れていき、どれくらい吸収できるかを知るための実験です。

★今回実施してみた結果は次の通りです。

- ①折り畳んだ新聞紙 : 1回(200ml)吸収しました。
- ②2カップの猫砂 : 2回(400ml)吸収しました。
- ③犬用トイレシート : 4回(800ml)吸収しました。
- ④7グラム入りの凝固剤 : 4回(800ml)吸収しました。

実験では以上の結果になりましたが、製品によって違いがあり、またゴミ収集に出す時は、運搬の際に水分が出ないように、し尿を少な目に入れる方が良いと思われます。何グラムの凝固剤、何カップ猫砂を入れるかで、当然結果は変わりますが、備蓄しておくという観点からは、やはりかさばらない凝固剤が便利です。また、犬用トイレシートもよく吸収します。ただし、何を備蓄しておくかは収納スペースやコスト面など、各ご家庭の事情に合わせるのが良いでしょう。

排水設備が復旧するまで

各家庭からの排水管、下水道、水道等がいつ復旧するかわかりません。とても長い時間トイレ問題をしのげるだけの備蓄をしておくのは、並大抵ではありません。そのような時の為に新聞紙を1ヶ月間分備蓄しておいてください。新聞紙は「新聞紙・コップ法」という使い道があります。

新聞紙・コップ法とは

尿は病院の検尿検査と同じようにコップで受けてバケツなどに貯めます。尿のアンモニア臭は気になりますが、消臭対策をすれば便とは異なり、無害なので溜まったら排水溝などに捨てることができます。大便是新聞紙で包んでポリ袋に入れ、庭やベランダで保管します。

まとめ

川崎市に確認したところ、災害後3日後にはごみ収集をする予定とのことでした。

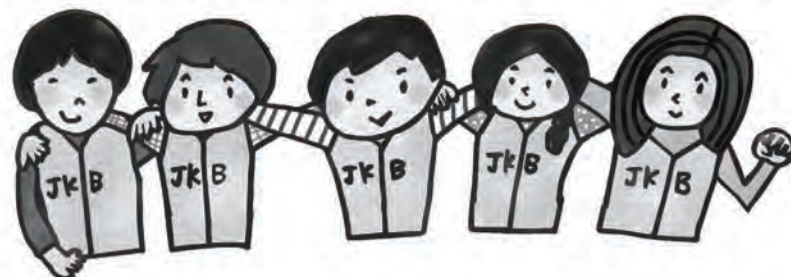
「トイレごみ」と書いてあるゴミ袋も、普通ゴミとして収集されます。

ただし、水分が出ないように凝固または吸収させておかないと、大変不衛生になりますので注意しましょう。

私たちは水を流せない時のトイレの備えを、各家庭に合わせて用意し必要な数を確保して、前もって「トイレごみ」を収集日まで何処に保管するかも決めておくなど、災害時のトイレ問題を自分のこととして考えておく必要があります。

講座内ではご説明できませんでしたが、昨年度学びました、UD ドライトイレの方法を参考にすると消臭・殺菌のために「消石灰」(園芸用など)をふりかけます。尿と便を分離して処理するのが望ましいのですが実際は難しいので、尿と便が混ざった場合には少し多めにかけます。ポリ袋を使用している場合は、軽く口を締めます。それを貯留用の大型バケツ(ふた付のもの)などに2重にゴミ袋をかけ、その中に入れます。

処理方法については、まだまだ課題が多いのでJKBとしても引き続き情報を集めてより自助・共助の中で取り組める方法を検討して提案していきます。



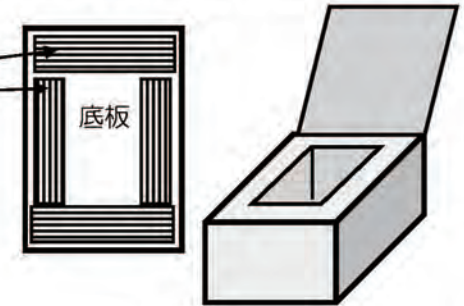
非常用ダンボールトイレを作る！(JKB版)

これは、平塚市の「女性防災クラブ 平塚パワーズ」によって考案され、私たち「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト」メンバーが作り方を変えたものです。

5グループ(各7人)が、それぞれダンボールカッターを駆使し、力を合わせて作り上げました。構造は簡単です！

【中の構造を上から見ると】

- ダンボール板を切って束ね、補強材にする。
- 内・外側に布ガムテープを貼って防水するが、ガムテープがなくても、糊やボンドでも作成可能。
(詳しい作り方は、川崎市男女共同参画センターまで)



【ダンボールトイレの利点と欠点など】

- ① 災害後に、支援物資が入っていたダンボールやプチプチシート(座面のクッション用)など身近な材料を使って作ることができる。補強材は、発泡スチロール板でも良い。
- ② 箱のサイズによって、大小色々な大きさのトイレができる。
(子供用は小さく作り、高齢者用は安定のため大きく作るなど)
- ③ 水分に弱いので、厚手のポリ袋などで防水をしっかりとる必要がある。
- ④ 中に入れる吸収材は、凝固剤・新聞紙・犬用トイレシートなどがあるが、できれば尿を別にとる「新聞紙・コップ法」で、ゴミを少なくしたい。
- ⑤ 人目を避けることができる場所に設置する必要がある。

☆万一に備えて、ダンボールトイレの作り方を覚えてみませんか？

また、バケツや紙箱を使ったトイレなど、すくらむ21のホームページで最新版のトイレ対策資料を紹介しています。

参加者の感想

- ・ビニール袋や新聞紙のストック、代用トイレなど、とても勉強になりました。
- ・体験した事が形になっていくことが嬉しいです。ぜひ町会で広めたいです。
- ・もう少し時間があるとよかった。
- ・実際にやってみると工程があったので、緊急時は大変そう。
- ・参考になりました。あらかじめ用意しておかなければ。
- ・急にはないので、普段からある程度まで作っておくとよいと思いました。
- ・今日の知識を広めていきたい。

編集後記

- すべての人に起こる生理現象である排泄、つまりトイレ問題は震災時においてとても重要なことのひとつだと思います。今回は、状況に応じて色々な方法があるということを伝えることができました。過去のいくつかの大震災でも深刻な問題であったことを認識し、一人一人がその時にパニックにならないよう、日頃から備えることが大事だと思います。
- 災害時に後回しになるのがトイレ問題です。今回の講座では、レジ袋トイレやダンボールトイレを作製体験して有意義な講座になったと思います。何時、非常事態に遭遇しても誰もが困らない為には防災関連講座や防災グッズに興味を持つ事も大切だと感じました。